

労働安全衛生ということ（実践編-7）

ヒヤリハット報告書

「罪を憎んで人を憎まず」。言うは易し行なうは難しです。

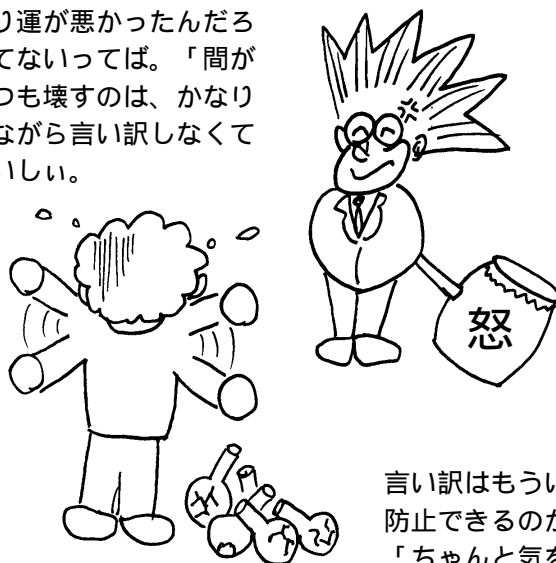
学生や部下がトラブルを起したとき、怒鳴っていませんか？。トラブルを、原因を作った者の道徳的責任に帰するのは簡単です。しかし、それで良いのですか？。世間では事故や事件において人災側面を過大に評価する傾向があります。犯人を探す人（多くの場合当事者ではない者）はいつも正義の味方ですから、トラブルの責任者探しは躊躇無く行なえます。でも「ちゃんとやれば事故は防げた」という道徳的批判は、実は、何も生みだしません。道徳的責任の追及は事故の本質の隠蔽どころか、トラブルそのものの隠蔽にもつながります。

人はミスをするという前提、フルプルーフ フェイルセーフという考え方が必要です。そして、ミスを防ぐ対策のためには「事故から学ぶ」姿勢が必要です。事故を起した者を教師としましょう。なかでも「ヒヤリハット」は事故から学ぶための有効な手段です。

ハインリッヒの法則という経験則は、1件の重大な事故の周りには29件の軽微な事故があり、さらにその周りには300件の「ヒヤリハット」の存在を指摘しています。このヒヤリハットの種を1つずつ潰していけば、重大事故の発生を防げます。ヒヤリハットの種を潰すためには、小さなトラブルの一つ一つの原因を分析し、対策をたてればよいのです。

「こわれちゃった？」、じゃなくて「こわしちゃった」だろ。センセーは君のことを怒っていないからな。何がまずかったのかなあ？。「運が悪かった？」。なるほどね。続けて5つも壊すのは、かなり運が悪かったんだろうなあー。いや、センセーは怒ってないってば。「間が悪かった？」。そりゃ、続けて5つも壊すのは、かなり間も悪かったんだろうなあー。泣きながら言い訳しなくてもいいからネ。センセー怒ってないしい。

よくある話



言い訳はもういいから、どうしたら再発防止できるのかを考えてごらん。「ちゃんと気をつけて作業するう〜？」。センセーしまいには怒るよ！。

交通事故を起こす人は何度でも起こすし起さない人はめったに起しません。また、交通事故多発地点や時間帯は存在します。職場の事故やヒヤリハットも同じです。同じようなトラブルは同じ人や同じ場所や同じ状況で繰返します。その再現性の解析で事故を防げます。

トラブルを起した人を責めてはいけません。その人には「事故再発防止策」を考えていただきましょう。ヒヤリハットは始末書ではありません。事故再発防止のための手段です。真実を明らかにする触媒です。

ヒヤリハット報告書

報告日：平成 年 月 日

いつ	どこで	だれが
何が起きたか		
被害・損失	処置情況	
原因分析 ・ 思考 ・ 認知 ・ 動作 ・ 体調 ・ 環境 ・ その他	応急対策案	
	抜本的対策案	
現場教官コメント・指示	職制上位者コメント・指示	

原因分析は、以下の選択肢の中から選んでください。該当するものがないときは書き加えてください。

思考： 忘れた；予想しなかった；大丈夫だと思った；思い違いをした

認知： よく見えなかった；気がつかなかった；見落とした；複雑でわかりにくかった

動作： やりにくかった；無理をした；いらんことをした

体調： 疲れていた；イライラしていた；心配事があった；飽きていた

環境： 乱雑であった；保護具をしてなかった；保護具がなかった；